

光反射シートによるチャノキイロアザミウマの防除法						
[要約] <u>かんきつ園に光反射シートを設置することによってチャノキイロアザミウマによる被害を軽減できる。</u>						
長崎県果樹試験場・病害虫科	専門	作物虫害	対象	果樹類	分類	指導
平成4年度長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

チャノキイロアザミウマはミカンハダニと並んで、かんきつの重要害虫で、この被害を防ぐために、年間4～5回の薬剤散布が行われている。使用される薬剤は合成ピレスロイド剤や有機リン剤が主体でミカンハダニのリサージェンスを助長したり、有用天敵を併殺するものが多く、潜在害虫の多発による薬剤散布回数の増加などかんきつの害虫管理上問題が多い。このため薬剤散布以外の手段で被害を軽減する方法を検討した。

[成果の内容・特徴]

- ①かんきつ園に光反射シートを設置すると薬剤を散布しなくても、チャノキイロアザミウマによる果実被害を軽減できる。

[成果の活用面・留意点]

- ①光反射シートを設置するとミカンハダニの多発を助長する傾向があるので、その防除対策を十分に行う。
- ②樹冠占有率が約60%以上の園では効果が十分でないで、薬剤散布の必要がある。

[具体的データ]

表1 シルバーマルチによるチャノキイロアザミウマの被害軽減効果

処 理 区	果実被害度	
	果梗部	果頂部
シルバーマルチ	2.3	5.7
無 処 理	12.1	18.5

表2 光反射シートによるチャノキイロアザミウマの被害軽減効果  
(静岡柑試1993年)

処 理 区	果 実 被 害 度		
	果梗部	果頂部前期	果頂部後期
光反射マルチ	0.1	1.1	0.1
無 処 理	20.7	26.0	54.5

[その他]

研究課題名：果樹の生態系活用による害虫の総合管理技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成4年度（平成2～8年）

研究担当者：大久保宣雄

既発表論文等：平成4年度長崎県果樹試験場業務報告

残された問題点：なし